

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 10 号を発表したので送付します。

令和 2 年度 病 害 虫 発 生 予 察 注 意 報 第 10 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)
- 3 発生地域 八重山群島

4 注意報発令の根拠

11 月中旬の石垣島での調査の結果、新植夏植ほ場の芯枯茎率は 2.7%「平年値よりやや多」(前年 2.5%、平年 1.0%、図 1)であった。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は、カンシャシクイハマキ (64%)、イネヨトウ (36%) であった。11 月の合成性フェロモントラップ誘殺虫数(虫数/トラップ/日)は、カンシャシクイハマキは 5.1 頭(前年 13 頭、平年 3.9 頭)、イネヨトウは 2.7 頭(前年 0.8 頭、平年 1.5 頭)であった。

病害虫防除員による調査では、波照間島及び与那国島のメイチュウ類発生程度は中発生であった。

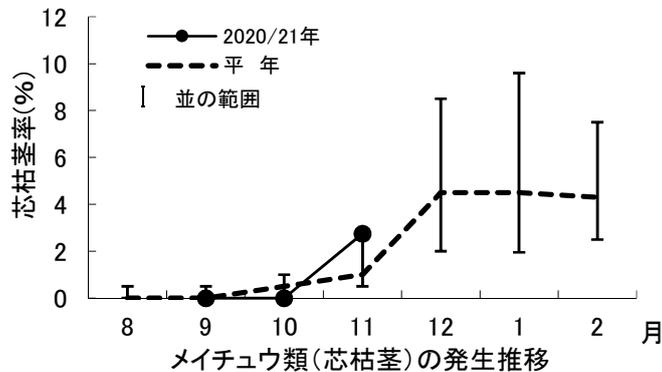


図 1 石垣島におけるメイチュウ類(芯枯茎)の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 本県では周年発生する。
- (2) ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす(図 2、3、4)。
- (3) カンシャシクイハマキ被害はほ場に散在的に発生し、イネヨトウ被害は集中的に発生し坪枯れを起こす。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 乳剤を使用する場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (3) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (4) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図2 カンシャシンクイハマキ幼虫



図3 イネヨトウ幼虫



図4 芯枯茎